

刊行にあたって

診療報酬の改定に伴い、院内感染防止対策の導入が保険点数に反映されるようになり、歯科医療における院内感染防止対策の重要性の認識も高まってきたころである。それに合わせるかのように、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）が現在、世界各国で拡がりをみせており、無症候性による感染の拡大がいかに危険であるか理解されるようになった。若い人や基礎疾患をもっていない人は軽症で済むが、症状が軽いために容易に他の人に感染させる。それがあつという間に高齢者、基礎疾患をもっている人へ移して死亡させてしまう。歯科治療において感染させている事例がなくとも、唾液や血液が飛び散る歯科医療は、COVID-19のような無症候性の感染者を介して、病原体の媒介行為になってしまうことが予測される。

このような現状から、本増刊号はまさしくタイムリーな時期に提供できる「歯科医療における感染防止のための活用本」となった。本増刊号では、院内感染防止対策の導入に必要な意識、知識、行動をもれなく教授し、実際に使用する器具・器材をわかりやすく解説する。歯科医師が医療を行う際に欠かせない1冊であろう。

また、歯周内科、矯正歯科、小児歯科、訪問歯科、口腔外科を展開する臨床歯科医に、実際の現場で行っている院内感染防止対策を解説していただいた。それらは院内感染防止対策を行う際の重要な情報源となるだろう。そして、自身が行っている院内感染防止対策を評価し、フィードバックできるのも本増刊号の強みである。

本増刊号が、多くの歯科医師の院内感染防止対策導入に役立ち、新しい歯科医師像の創生に役立てられれば幸いである。

2020年3月
編集委員一同